

災害の記憶 忘れずに

先人が残した「自然災害伝承碑」

※本ページの写真・図は国土交通省
HPから引用したものです

国土交通省HP
自然災害伝承碑▶



■皆さん、このマークを見たことがありますか？

これは「自然災害伝承碑」といって、過去に起きた津波や洪水、火山・土砂災害など自然災害の情報を伝える石碑やモニュメントを表す地図記号です。

国土地理院は全国から情報を集め、令

和元年からウェブと紙の地図に伝承碑の掲載を始めており、その数は現在1,900基にもなります(5月18日現在)。そのうち、県内には47基、市内は3基が公開されています。

人 未来へつなぐ 碑の教え

日本は昔から、数多くの自然災害に見舞われてきました。そして被害を受けるたび、先人たちはその時の様子や教訓を碑に刻み、後世の私たちに残してくれました。

近年では、明治から昭和にかけて度重なる津波の被害を受けた岩手県の三陸地域にある「ここより下に家を建てな」と書かれた碑が有名かもしれません。実際、東日本大震災ではこの碑の教えを守り、難を逃れた地域も多いといわれます。

碑があることを知っている人は多いかもしれませんが、その内容まで読む人はそれほど多くないのではないのでしょうか。

災害はいつ、どこで起きるかわかりません。「絶対安心」はありません。しかし、過去の教訓に少しでも触れることで、より早く、的確な防災・減災行動につながる事が期待されます。昔の人の思いに伝えてみませんか。



県内の自然災害伝承碑

人 安中市内の「自然災害伝承碑」

※()内は災害の起きた年



遭難碑(明治43年)
松井田町西野牧



熊の平殉難碑(昭和25年)
松井田町坂本(旧熊ノ平駅)



水害之記(昭和10年)
中後閑